

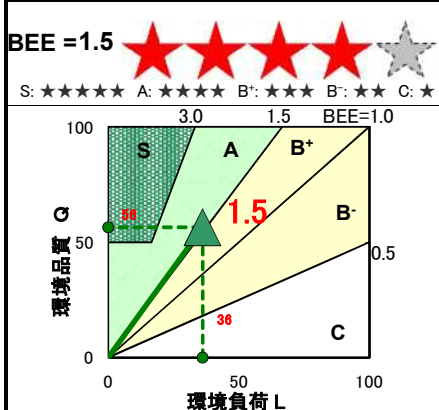
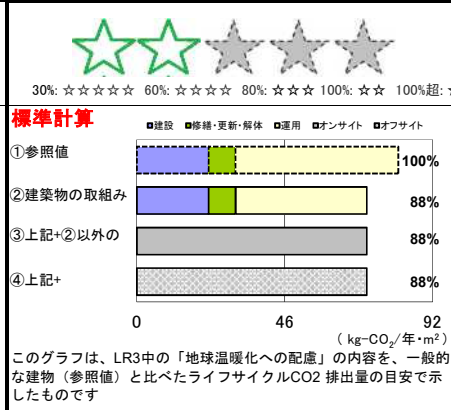
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23012

建築物名称	(仮称) クレストフォルム矢向3 F棟新築工事
建築主	株式会社ゴールドクレスト 執行役員 企画開発部長 益田 俊哉
建築物の所在地	川崎市幸区新小倉2番545-52、545-53、545-54、545-55、 545-80、545-81、545-82、545-85
設計者氏名、建築士事務所名	木村 哲久 株式会社日建ハウジングシステム 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	29,114.24㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
階数	地上15階、地下1階
工事完了予定年月	令和8年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

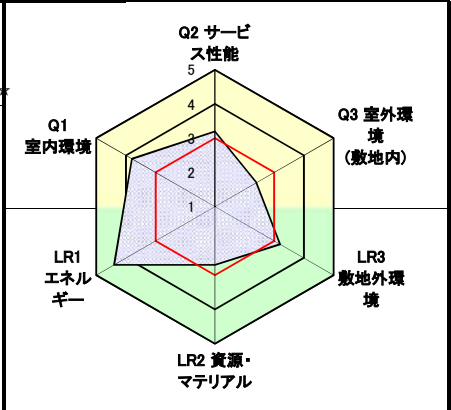
1-1 建物概要			1-2 外観	23012
建物名称	(仮称)クレストフォルム矢向3F棟新築工事		階数	地上15F地下1F
建設地	川崎市幸区新小倉2番545-52他7筆		構造	RC造一部S造
用途地域	準工業地域 準防火地域		平均居住人員	1,472 人
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年1月	予定	評価の実施日	2024年10月15日
敷地面積	61,007 m ²		作成者	土橋泉、及川清弘
建築面積	2,548 m ²		確認日	2024年12月1日
延床面積	29,114 m ²		確認者	木村哲久

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

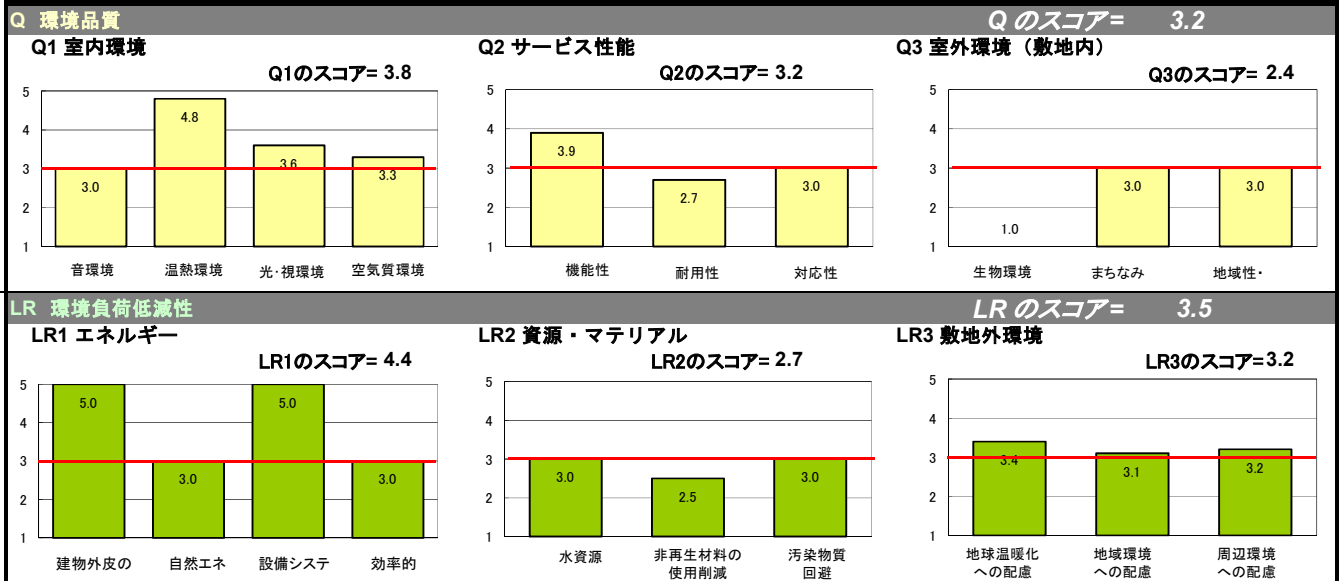
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の緑化率を5%上回る計画とした		
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市景観計画の即した計画とした		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率を63.41%とした	2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標を0.5とした	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	住宅は、カーテン及び庇状のもの(廊下、バルコニー、等)により昼光制御	6.7/7.4	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の緑化率を5%上回る計画とした		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率を63.41%とした	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	エコジョーズを採用		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		4.4/5.0	4.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	LGS工法を採用し、躯体と仕上げの分離を容易にした		
3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.5/4.7	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標を0.5とした	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.2/0.5	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水の流出抑制を対策している	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	エコジョーズを採用		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		4.4/5.0	4.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標を0.5とした	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	太陽光発電の設置		
3 設備システムの高効率化	エコジョーズを採用		
4 効率的運用		4.4/5.0	4.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.8
1 音環境						2.5	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	2.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					T-2以上	3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能					—	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	3.0	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	5.0	1.00	4.8
2.1 室温制御					—	3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温		W			—	-	-	-	-	
2 外皮性能					等級4を超える水準	3.0	1.00	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.7	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用					昼光率6.8	3.0	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					—	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					ブラインド等	2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			—	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.2	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策					☆☆☆☆	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					—	2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量					—	1.0	0.50	1.0	0.33	
2 自然換気性能					—	3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.0	0.40	4.0	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性					光	3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					天井高2.5	3.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観					—	3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	3.0	-	-	-	
3 内装計画					—	3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			R		—	2.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		—	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性						3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり						-	-	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり					-	3.0	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ					-	3.0	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり					-	3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性						3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性					-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性					-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性					-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性					-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性					-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保					-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	G	W		H	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G				-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上					-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.5
LR1	エネルギー						-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H	等級5	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W		H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W		H	ZEH	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価						-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-	3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル						-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水					-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無					-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無					-	3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減						2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		W	R		-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R		-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R		-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		-	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用					-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W			-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W			-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W			-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境						-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		W			換算スコア-3.4	3.4	0.33	-	-	3.4
2	地域環境への配慮						3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減			R		-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			R		-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制			R		駐輪200%	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			R		ディスプレイ	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
	1 騒音					-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動					-	-	-	-	-	
	3 悪臭					-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制					-	1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					屋外広告無	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	1.0	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	—	○	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—
2.4.1 空調・換気設備	1.0	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	○	—	○	—
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.4.3 電気設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.4.5 通信・情報設備	1.0	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0	—	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	—	2.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	—	—	—	—	—	—	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	—	—	2.0	—	3.0	—	—	—	2.0	2.0	—	—	—	—
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.1 材料使用量の削減	2.0	—	—	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0	—	1.0	—	—	3.0	3.0	—	—	2.0	3.0	—	—	—	—
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	—	1.0	—	1.0	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	—	1.0	1.0	1.0	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—
3.2.2 砂塵の抑制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	—	2.0	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(0.5 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0

外壁 2.0 床 2.0

住戸部システムU値 -

外皮UA値 -

ηAC -

ηAH -

屋光率 6.8%

自然換気有効開口i 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

執務スペース 6.0㎡ / 人 病床 8.0㎡ / 床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容i 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.86 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 48.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 4000 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 45% 建物緑化指数 3%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 62% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 30% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 熱等性能等級 等級4を超える 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.80 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(0 地球温暖化係数(GWP) 1430

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 300%棟間隔指標Rw 0.50

地表面対策面積率 60.0% 屋根面対策面積率

0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 4.263㎡越風向と直交する最大敷地幅Ws

96 m 基準高さHb 14.8 m

緑地 ##### 水面 ㎡ 保水性対策面 15.313㎡

高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡